

埼玉県特別支援教育研究会高等学校分科会シンポジウム

「特別な教育ニーズのある生徒に、高等学校はどのような支援ができるか」

話題提供 (埼玉県立上尾特別支援学校上尾南分校 教頭 菅原 博)

タイトル「分校は地域における特別支援教育の情報発信基地を担う」

【インクルーシブ教育における支援】

「上尾南分校」は、県内特別支援学校の生徒増に伴う教育環境の整備とインクルーシブ教育を推進する目的で、令和4年4月に県立上尾南高等学校内に開校した1学年16人を定員とした知的障害特別支援学校高等部である。埼玉県は、同年4月に北本分校、宮代分校も開校した。さらに、今後2年間で6校の高校内分校を開校する予定である。

高校生と敷地内で共に生活することや公共交通機関を利用し自力で通学するということから、知的障害の程度が比較的軽度の生徒が学んでいる。

本分校は、職業教育を推進するとともに教科指導にも取り組み、「職業教育」と「教科指導」の両輪にて、キャリア教育を推進し、卒業後の企業就労及び社会参加を目指している。また、インクルーシブ教育を推進するため、上尾南高校との「交流及び共同学習」を積極的に取り組むための組織を立ち上げ、様々な内容を検討している。現在は、「学校行事」や「総合的な探求の時間」、「部活動」にて共に学ぶ機会を設けている。また、教職員の交流の場面も増えており、特別支援教育について話をする機会が生まれている。



【分校におけるセンター的機能】

特別支援学校のセンター的機能として、高校へ特別支援教育の視点による支援の提案等も多く行っているが、高校は様々なケースを抱えており、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの活用も多いと聞いている。今後、分校が多く設置されることによる分校のセンター的機能について活用の幅を広げていく必要があるのではないかと考えている。特別支援教育コーディネーターによる支援等の提案のほか、進路を選択する上での進路指導主事による障害者雇用や福祉サービスについての情報提供など、卒業後の生活についてもセンター的機能のひとつとして、さらに充実していくことも必要であると考えます。

【地域における特別支援教育の情報発信基地】

地域において支援の対象となる児童生徒及び保護者に対し、将来をイメージできるような進路についての情報提供を行う必要があると考えている。もちろん保護者との関係性を構築しながら状況に応じて行うことを前提とするが、「学びの選択肢」「社会参加の選択肢」が複数あるということ、それらの選択肢の中から児童生徒及び保護者がよりよい選択ができるよう情報を提供し続けることが重要と考える。なお、提供する際には教育課程や学校生活及び卒業後の進路選択について選択肢がかわってくることも丁寧に情報提供を行なうことが重要である。

コロナ禍で行えていない状況もあるが、学校説明会や上級学校訪問などにおいて学校を公開し、児童生徒には実際に分校の生活を見学・体験することができ、保護者に対しては特別支援教育について情報提供を行うなど、特別支援教育にかかわる機会を多く設け、地域の中の分校として「地域支援を担う基地」となる必要があると考える。